
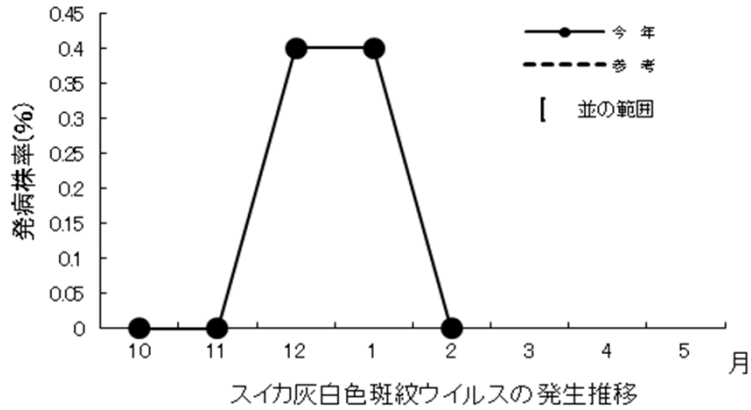


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	スイカ灰白色斑紋ウイルス		
2月の発生量（現況）	(発生なし) 判定不可		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	媒介虫のミナミキイロアザミウマが2月と同程度の発生量である見込みから、2月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病株率は0%であった。



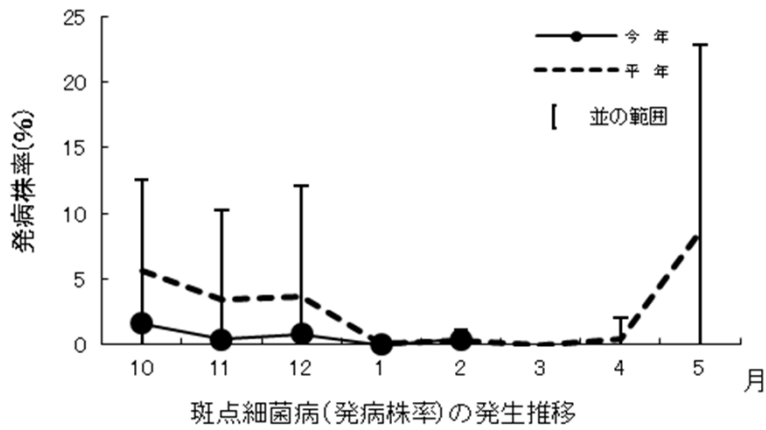
防除のポイント

- ・ 本ウイルスはミナミキイロアザミウマによって媒介される。
- ・ 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	① 斑点細菌病		
2月の発生量（現況）	並		
3月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、2月より発生量は減少すると考えられる。		



発生量の根拠（調査結果）

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病株率は0.4%（前年1.2%、平年0.3%）と平年並であった。



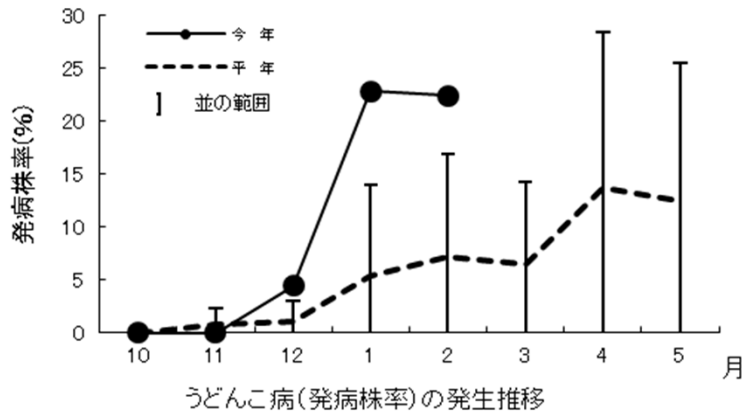
防除のポイント

- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
2月の発生量（現況）	やや多	発病株	葉裏のカビ
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が少ない見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病株率は22.4%（前年8.0%、平年7.1%）と平年よりやや高かった。



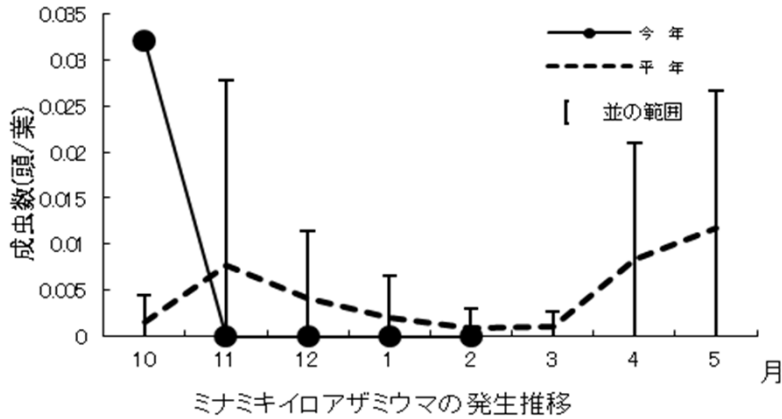
防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0頭(前年0頭、平年0頭)と平年並であった。



防除のポイント

- ・ 本種は新葉や果実を吸汁により加害する。新葉は縮れ、果実にはコルク化した線状の傷が付く。また、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・ 施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・ 繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・初期防除に努める。
- ・ 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。